

教科	国語	科目	現代文B	単位数	3	学年	3年
教科書（出版社）	新編現代文B（東京書籍）						
副教材（出版社）	プレミアムカラー国語便覧（数研出版）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使う。
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポートの記述</li> <li>・学習状況の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・課題等の記述</li> <li>・自己評価</li> </ul>

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	随想「カフェの開店準備」 詩「竹」「永訣の朝」 評論「最初のペンギン」 小説「山月記」	
2学期	表現「敬語の使い方」 評論「豊かさと生物多様性」 小説「カンガルー日和」 評論「もう一つの知性」	
3学期	小説「葉桜と魔笛」	

学習方法	現代文は、教材を通して考えを深めること、視野を広げることが重要です。まずは、語句の意味や基本的な漢字を習得すること、そして要旨をしっかりと捉えそれを踏まえた自分の意見が書ける・言えるようにします。
ICT活用	ドキュメント（レポート・感想文）、スライド（発表資料・まとめ）、ジャムボード（意見集約・まとめ）、Forms（振り返り）

教科	国語	科目	古典B	単位数	2	学年	3年
教科書（出版社）	新編古典B改訂版（大修館書店）						
副教材（出版社）	プレミアムカラー国語便覧（数研出版）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使う。
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポートの記述</li> <li>・学習状況の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・課題等の記述</li> <li>・自己評価</li> </ul>

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	漢文「唐宋八家文読本」雑説 古文「大鏡」競べ弓 漢文「十八史略」先づ隗より始めよ	
2学期	古文「枕草子」中納言参りたまひて 漢文 韓非子「侵官之害」 古文「源氏物語」桐壺 漢文「十八史略」諸葛亮の死	
3学期	百人一首に親しむ 古文「大鏡」鶯宿梅	

学習方法	古典の学習をする上では、小さいこと（語句の意味・句法・文法など）をこつこつと覚えることが必要です。そうすることで、単元の内容も深く理解できるようになります。古典を学習し、昔の人の考え方・文化などを楽しんで学びましょう。
ICT活用	ドキュメント（レポート・感想文）、スライド（発表資料・まとめ）、ジャムボード（意見集約・まとめ）、Forms（振り返り）

教科	地理歴史	科目	日本史B	単位数	2	学年	3年
教科書(出版社)	新選日本史B(東京書籍)						
副教材(出版社)	プロムナード日本史(浜島書店)、ゼミナール日本史(浜島書店)						

科目の目標(育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気づき、関心をもって主体的に学習に取り組む。</li> <li>・現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく主体としての自覚をもって考える態度を身に付ける。</li> <li>・基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解する。</li> <li>・日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察する。</li> <li>・歴史的に形成された諸課題について、様々な理解・立場があることを踏まえて、公正に判断する。</li> <li>・課題についての考察や判断の過程や結果を、適切な方法を選んで効果的に表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができる。</li> <li>・得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付ける。</li> </ul>
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・ノートの提出</li> <li>・復習プリント</li> <li>・史料の読み取り</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・学習活動の様子や発表、討論</li> <li>・レポート課題</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題</li> <li>・学習活動の様子や発表、討論</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ	1 中世社会の成立 2 武家社会の形成と東アジア
2学期	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開	1 ヨーロッパの文化との接触と国内統一 2 幕藩体制の成立 3 近世社会の発達と町人文化 4 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達
3学期	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展	1 開国から明治維新へ 2 立憲政治の形成と国民文化

学習方法	日本史Bでは、歴史的に形成されてきた現代の日本社会が抱える課題の多くを、日本の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて学ぶことによって、それらの課題についてより深く理解することを目標としています。これらの課題を理解するために、歴史的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身に付け、歴史学習にかかわる基本的な技能を段階的に高めていけるように学習しましょう。☑
ICT活用	Google(資料等検索)、ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約)、Forms(単元テスト・振り返り・アンケート)

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	3	学年	3年
教科書（出版社）	政治・経済（東京書籍）						
副教材（出版社）	政治・経済 ワークノート（東京書籍）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	<p>○現代の政治、経済、社会、国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につける。</p> <p>○現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題や重要な課題にかかわる事柄に関する諸資料をさまざまなメディアから収集し、有用な情報を適切に選択・活用することができる。</p> <p>○得られた資料や情報を効果的に活用し、社会の諸問題を探究する学び方を身につける。</p>	<p>○現代の政治や経済などにかかわる基本的な問題にかかわる諸課題を考察し、それらの本質や特質、望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察できる。</p> <p>○社会の変化やさまざまな立場、考え方があることを理解した上で公正に判断できる。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現できる。</p>	<p>○現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち、意欲的に探究しようとする。</p> <p>○社会的事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につける。</p> <p>○国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるため参加、協力する態度を身につける。</p>
評価方法の例	<p>○定期テスト ○単元テスト</p> <p>○レポート課題 ○資料の読み取り</p> <p>○学習の振り返り</p>	<p>○定期テスト(論述問題など)</p> <p>○レポート課題 ○討論・発表</p> <p>○学習の振り返り</p>	<p>○レポート課題 ○討論・発表</p> <p>○学習の振り返り</p>

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1章 現代の政治	3節 日本の政治機構
		4節 現代政治の特質と課題
		5節 現代の国際政治
2学期	第2章 現代の経済	1節 現代の資本主義経済
		2節 現代経済のしくみ
		3節 日本経済の発展と産業構造の変化
		4節 福祉社会と日本経済の課題
		5節 国民経済と国際経済
3学期	第3章 現代社会の諸課題	1節 日本社会の諸課題
		2節 国際社会の諸課題

学習方法	教科書を中心に授業を進めていくので、まずは教科書を理解することが大切です。時事的な話題を絡めながら授業を行っていくので、ニュースや新聞などをよんでいるとさらに理解を深めることができます。単元テストは、知識を問う問題が多くなる予定です。定期テストでは、教科書の中にあるデータ等を利用した問題を出題する予定です。資料の読み取りができるようになってくるとよいと思います。高校卒業後に役に立つような情報をたくさん提供していこうと考えています。自分で生きていくことを踏まえ、世の中のことに興味関心を持つことができれば、政治経済を楽しく学ぶことができます。
ICT活用	Google（資料等検索）、ドキュメント（レポート）、スライド（発表資料）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約）、Forms（単元テスト・振り返り・アンケート）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3	学年	3年
教科書(出版社)	改訂版 最新 数学Ⅱ(数研出版)						
副教材(出版社)	REPEAT 数学Ⅱ+B(数研出版)						

科目の目標(育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	いろいろな式、図形と方程式、三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・レポートの記述</li> <li>・探究活動の内容</li> <li>・学習状況の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・課題、ノート等の記述</li> <li>・自己評価</li> <li>・振り返り</li> <li>・発表</li> </ul>

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第4章 三角関数	一般角、弧度法、三角関数、加法定理
2学期	第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法	指数法則、指数関数、対数の性質、対数関数 微分法、積分法
3学期	単元テスト	単元テスト

学習方法	数学は、毎日コツコツ取り組む教科です。苦手意識を持っている人も多いと思いますが、毎日取り組むことで、苦手を克服できます。まずは、たくさんの問題に触れることから始めましょう！
ICT活用	スタディエイドビューア(課題配信)ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)
ICT活用	スタディエイドビューア(課題配信)ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)

教科	数学	科目	数学叡知	単位数	2	学年	3 年
教科書（出版社）	改訂版 最新 数学Ⅱ(数研出版)						
副教材（出版社）	ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をつける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・レポートの記述</li> <li>・学習状況の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・課題、ノート等の記述</li> <li>・自己評価</li> <li>・発表</li> </ul>

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	1 章 数と式 2 章 二次関数 3 章 図形と計量 4 章 データの分析 5 章 場合の数と確率 6 章 図形の性質 7 章 整数の性質	過去に取り組んだ問題を復習しながら解く
2 学期	8 章 式と証明 9 章 複素数と方程式 10 章 図形と方程式 11 章 三角関数 12 章 指数関数・対数関数 13 章 微分法と積分法	過去に取り組んだ問題を復習しながら解く
3 学期	14 章 ベクトル 15 章 数列 これまでで正答率が悪かった問題の単元をもう一度解く	過去に取り組んだ問題を復習しながら解く

学習方法	数学は一度問題を解くだけでは身に付きません。何度も問題を解き、間違ってもいいので諦めずにやってみましょう。間違えることで逆に数学力が付き、いつの間にか身につけているというケースもよくあります。めげずに頑張りましょう！
ICT活用	スタディエイドビューア（課題配信）ドキュメント（レポート）、スライド（発表資料・まとめ）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	理科	科目	化学	単位数	3	学年	3 年
教科書 (出版社)	改訂 化学(東京書籍)						
副教材 (出版社)	セミナー化学基礎+化学(第一学習社)						

科目の目標 (育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	化学基礎の知識をもとに、化学の基本的な概念や原理・原則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する知識・技能を身に付ける。	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得し、自身の考えを表現できる。	日常生活や社会に関連する化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから自ら課題を設定し、学習を調整しながら解決しようとする態度を身に付ける。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・実験、観察での活動状況 など	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・実験、観察での活動状況 など	・課題レポートへの取組状況 ・振り返りレポート ・自己評価とその後の学習の調整状況 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	1 編 物質の状態	3 章 溶液の性質 4 章 固体の性質
	2 編 化学反応とエネルギー	1 章 化学反応と熱・光
	3 編 化学反応の速さ	1 章～3 章
2 学期	4 編 無機物質	1 章～5 章
	5 編 有機化合物	1 章～5 章
	6 編 高分子化合物	1 章～3 章
3 学期	大学入学共通テスト対策 大学個別学力試験対策	化学基礎・化学 総合問題

学習方法	<p>化学は、化学基礎に加えてさらに広範囲の知識を活用し、日常生活や先端科学技術に関わる事物・現象の原理・原則を学ぶことができます。多くの知識や定理を用いた計算なども登場してきますが、物質やイオンの動きをイメージし、定理の中身を考えながら運用していきましょう。難解なところは、ペアワークやグループワークの中で互いに学びあい、お互いにきちんと理論立てて説明できるまで、学習する意識を大切にしてください。</p> <p>頑張ってもらいたいこと</p> <p>①学習ファイルの管理 ②単元テストへの対策 ③学習の振り返り・調整 ④定期考査 ⑤ペアワーク、グループワークでの積極的な意見交換</p>
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(実験データ整理)、ジャムボード(意見交換)、Forms(振り返り、アンケート)

教科	理科	科目	生物	単位数	4	学年	3 年
教科書 (出版社)	改訂版 生物 (数研出版)						
副教材 (出版社)	改訂版 生物 準拠ノート 教科書の整理 第1巻・第2巻 (数研出版)						

科目の目標 (育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を拭かみ、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	第5編 生物の進化と系統 第1編 生命現象と物質	第9章 生物の系統 第1章 細胞と分子 第2章 代謝 第3章 遺伝情報の発現
2 学期	第2編 生殖と発生 第3編 生物の環境応答	第4章 生殖と発生 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答
3 学期	第4編 生態と環境	第7章 生物群集と生態系

学習方法	私たち人間も生物です。生物を学ぶことは自分を知ること。何かひとつでも「生き物ってすごい！」と感じられることがあったらうれしいです。「生物は暗記科目」などと言われがちですが、ただひたすら丸暗記するのではなく、項目ごとのつながりを考えながら理解していきましょう。
ICT活用	ドキュメント (レポート・ワークシート)、スライド (発表資料・まとめ)、スプレッドシート (データ整理)、ジャムボード (意見集約・まとめ)、マイマップ (地図作成)、Forms (小テスト・振り返り・アンケート)

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年	3 年
教科書（出版社）	現代高等保健体育改訂版（大修館書店）						
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート改訂版 ・ アクティブスポーツ【総合版】（大修館書店）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解させる。また、運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けさせる。	豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫させる。また、個人及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考えさせ、判断させ、それらを表現させる。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組ませる。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心をもたせ、意欲的に学習に取り組ませる。
評価方法の例	・ 定期考査 ・ 学習状況の観察及び記録	・ 学習状況の観察及び記録 ・ ワークシートの記述 ・ 定期考査	・ 学習状況の観察及び記録 ・ ワークシートの記述 ・ 定期考査

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	体づくり運動 球技 ダンス 体育理論	体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画 ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスから選択 1 「生涯スポーツの見方・考え方」 2 「ライフスタイルに応じたスポーツ」
2 学期	球技 ダンス 陸上競技 体育理論	ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスから選択 長距離走 3 「スポーツを推進する取り組み」 4 「豊かなスポーツライフの創造」
3 学期	球技	ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択

学習方法	健康の保持増進などのために行われる運動や一定のルールや文化性をもつスポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえらるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす、さらには、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものです。これらのことを理解して学習活動に主体的に取り組んでください。
ICT活用	①電子黒板及びスクリーンの動画視聴 ②タブレットカメラ及びビデオ機能（振り返り・資料） ③スプレッドシート（データ整理） ④Forms（振り返り・アンケート）

教科	英語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	2	学年	3年
教科書（出版社）	VISTA English Communication Ⅱ（三省堂）						
副教材（出版社）	英語マスターノート（増進堂）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、限後の働きなどの知識を読むこと、話すことを実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況な等に応じて適切に活用できる技能を身に付ける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合うことができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図れる。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 3 The Sagrada Familia</li> <li>Lesson 4 Nobel Prize Episodes</li> <li>Lesson 5 Flowers in the Tomb</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サクラダ・ファミリア、その特色とは？</li> <li>・ノーベル賞のこぼれ話</li> <li>・黄金より美しかった花</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 6 Becoming the Best</li> <li>Lesson 7 The Galapagos Islands</li> <li>Lesson 8 Shodo, Old and New</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のトッププレイヤーになるためには？</li> <li>・ガラパゴス諸島に起こっていることは？</li> <li>・伝統文化を新しいスタイルで…</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 9 Water World</li> <li>Lesson 10 A Long Friendship</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水族館、今と昔</li> <li>・日本とトルコの友好関係</li> </ul>

学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でも、ICTを活用して英語に触れる時間を積極的に作りましょう。
ICT活用	ドキュメント（レポート・ワークシート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ・宿題）、サイト（背景知識の収集）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	英語	科目	英語表現Ⅰ・Ⅱ	単位数	3	学年	3年
教科書(出版社)	Vision Quest English Expression I Standerd・II Hope (KEIRINKAN)						
副教材(出版社)	英語マスターノート(増進堂)						

科目の目標(育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、限後の働きなどの知識を書くこと、聞くことを実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況な等に応じて適切に活用できる技能を身に付ける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを適切に表現したり伝え合うことができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図れる。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 12 I wish my parents were more understanding.</li> <li>Lesson 1 You have several traditional events.</li> <li>Lesson 2 How did your work experience go?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮定法過去・過去完了形</li> <li>主語のit・主語になる名詞句・形式主語など</li> <li>自動詞と他動詞・SVO・SVOO・SVC・SVOC</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 3 Let me tell you a story.</li> <li>Lesson 4 I want to work as an air traffic controller.</li> <li>Lesson 5 I wish I could have such an experice again.</li> <li>Lesson 6 This is a photo taken in Vancouver, Canada.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使役動詞・知覚動詞・V+O+todo</li> <li>～した・～していた</li> <li>義務・必要・推測を表す助動詞・仮定法</li> <li>前後から修飾する語句・関係詞</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 7 Are cell phones an essential part of our lives?</li> <li>Lesson 8 Which do you like better,cats, or dogs?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>副詞句・副詞節</li> <li>原級・比較級・最上級・最上級の意味を表す表現</li> </ul>

学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でも、ICTを活用して英語に触れる時間を積極的に作りましょう。
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ・宿題)、サイト(背景知識の収集)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)

教科	英語	科目	英語会話	単位数	3	学年	3 年
教科書 (出版社)	Sailing (KEIRINKAN)						
副教材 (出版社)	英語マスターノート (増進堂)						

科目の目標 (育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を読むこと、話すことを実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合うことができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図れる。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ unit 1 English Around the World</li> <li>・ unit 2 People Around Us</li> <li>・ Lesson 1 What Day Is Convenient for you?</li> <li>・ Lesson 2 How Was Last Sunday?</li> <li>・ Lesson 3 Could I Have an Extra Blanket?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Unit 1 自己紹介</li> <li>・ Unit 2 他人紹介</li> <li>・ Lesson 1 海外の高校生活</li> <li>・ Lesson 2 若者の休日の過ごし方</li> <li>・ Lesson 3 空港・機内のようす</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 4 Who's Calling, Please?</li> <li>・ Lesson 5 How Can I Get There?</li> <li>・ Lesson 6 May I Help You?</li> <li>・ Lesson 7 You Look Nice in That Dress!</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 4 電話の歴史</li> <li>・ Lesson 5 街のようす</li> <li>・ Lesson 6 世界の紙幣</li> <li>・ Lesson 7 世界の婚礼衣装</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 8 I'm Not Feeling Well</li> <li>・ Lesson 9 I Want to Be a Diplomat</li> <li>・ Lesson 10 Do You Share the House-work?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lesson 8 体の名称</li> <li>・ Lesson 9 職業あれこれ</li> <li>・ Lesson 10 育児・家事・仕事時間の国際比較</li> </ul>

学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でも、ICTを活用して英語に触れる時間を積極的に作りましょう。
ICT活用	ドキュメント (レポート・ワークシート)、スライド (発表資料・まとめ)、スプレッドシート (データ整理)、ジャムボード (意見集約・まとめ・宿題)、サイト (背景知識の収集)、Forms (小テスト・振り返り・アンケート)

教科	情報	科目	情報の科学	単位数	2	学年	3 年
教科書（出版社）	最新 情報の科学 新訂版（実教出版）						
副教材（出版社）	なし						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解しており、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱う。	情報や情報社会における身の回りの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現する能力を養う。	情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応する態度を養う。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 など	・定期考査 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 ・定期テストに向けた勉強の振り返り など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	1章 情報とコンピュータ 2章 ネットワークの仕組みと情報システム	<b>1章</b> 1節 情報の表し方 2節 コンピュータでのデジタル表現 3節 コンピュータの仕組み <b>2章</b> 1節 ネットワークの仕組み
2 学期	2章 ネットワークの仕組みと情報システム 3章 問題解決のためのコンピュータ活用	<b>2章</b> 2節 情報システムと情報セキュリティ <b>3章</b> 1節 問題解決 2節 アルゴリズム 3節 モデル化とシミュレーション
3 学期	4 章 ネットワークとデータベースの活用 5章 情報技術と社会	<b>4章</b> 1節 ネットワークの活用 2節 データベース <b>5章</b> 1節 情報化による生活の変化 2節 情報技術による社会の発展

学習方法	みなさんの身の回りはたくさんの情報で溢れかえっています。皆さんはそのたくさんの情報の中から正しいものは何か判断していかなければなりません。情報化の良い点と悪い点を理解し、生活を豊かにしていきましょう！
ICT活用	ドキュメント（レポート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ）、Google Colaboratory（プログラミング実行）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	専門家庭	科目	フードデザイン	単位数	2	学年	3 年
教科書（出版社）	フードデザイン新訂版（実教出版）						
副教材（出版社）	なし						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて相互に関連付けて理解するとともに、実践できる技術を身につける。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見して思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を解決する力を身につける。	食生活の充実を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・調理実習のできばえ など	・単元テスト ・定期考査 ・レポートの記述 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	3 章 食品の特徴・表示・安全  6章 フードデザイン実習☑	1 節 食品の特徴と性質 2 節 食品の生産と流通 3 節 食品の選択と表示 4 節 食品の衛生と安全  調理実習☑
2 学期	4 章 調理の基本  6章 フードデザイン実習☑	1 節 調理とおいしさ 2 節 調理操作 3 節 調味操作  調理実習☑
3 学期	5 章 料理様式とテーブルコーディネート  7 章 食育 ☑ 6章 フードデザイン実習☑	1 節 料理様式と献立 2 節 テーブルコーディネート  調理実習☑  1 節 食育の意義と推進活動☑

学習方法	フードデザインでは、2年間を通して食について学びます。学んだ知識や技術を日常生活に生かせるよう、毎回の授業を大切にして、実習等にも積極的取り組みましょう。
ICT活用	ドキュメント（レポート・ワークシート）、スライド（発表資料・まとめ）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）、classroom（課題提出など）

教科	総合的な探究の時間	科目	グローバル・プロデュースⅢ	単位数	1	学年	3年
教科書（出版社）	なし						
副教材（出版社）	なし						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	地域行政の組織を理解し地域活性化のための課題を発見し解決するための力を身につける。 進学・就職志望先の情報を知り、合格・内定に向かう力を身につける。	情報の選択や科学的な視点に基づいてデータを分析する力を身につける。 高校3年間の学びを進路選択に活かす力を身につける。	グループ活動を通して協働的に取り組むとともに、他人の意見の理解・尊重と自らの意見の合意形成しようとする態度を身につける。 高校3年間の学びを他者に伝えようとする態度を身につける。
評価方法の例	ワークノート レポート提出	プレゼンテーション 面談 作文 小論文	ワークノート提出 レポート提出 プレゼンテーション

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動の実践</li> <li>活動報告書の作成</li> <li>発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ別探究活動をとおして、課題解決を図る</li> <li>活動を振り返り、新たな課題を発見する</li> <li>探究したことをまとめ発表する</li> </ul>
2学期	進路学習	志望理由書や履歴書作成 面接練習 作文・小論文講座
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路学習</li> <li>発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路講話の準備</li> <li>進路講話</li> </ul>

学習方法	地域貢献活動を通して、国際人として課題を解決していくのに必要な知識やスキル、コミュニケーション能力を身に付ける。 進路希望先の情報を収集し、整理する。
ICT活用	パソコン、タブレット、プロジェクター、ビデオカメラ